

地 域 再 生 計 画

1 地域再生計画の名称

日置市らしさを感じる魅力と活力あふれるまちづくり計画

2 地域再生計画の作成主体の名称

鹿児島県、日置市

3 地域再生計画の区域

鹿児島県日置市の全域

4 地域再生計画の目標

4-1 地域の現況

日置市は鹿児島県の西部、薩摩半島の中西部に位置し、東は県都鹿児島市、西は日本三大砂丘で日本一の長さを誇る吹上浜を有する東シナ海に面しており、東西に南九州西回り自動車道、国道3号及びJR鹿児島本線、南北に国道270号などの交通網が整備されており、利便性の高いまちである。総面積は253.01km²であり、うち森林面積は149.90km²で約59%を占める。

本市の人口は、平成17年合併時に52,411人であったのが、平成31年3月に48,151人となり、高齢化率（65歳以上人口比率）も29.1%から34.0%となっており、人口減少と少子・高齢化が進行している。

本市の基幹産業である農林水産業は、豊かな気候風土のもとで、多彩な生産活動が行われ、市内物産館では年間来客数が100万人を超える賑わいを見せており、日置らしい魅力あふれる多彩な特産品が人気を集めている。しかし、生産者等の高齢化や後継者不足により1次産業の従業者数は減少傾向で推移しており、危機的な状況を迎えている。

林業では、森林経営管理制度の導入等によって所有者の森林への関心が高まる一方、平成25年からの5年間で林業就労者は20%程度減少しており、施業の効率化が求められるところである。また、本市は鹿児島県のなかでも比較的林道整備の遅れている地域であり、林道の整備による施業の増加が求められている。

また、県都鹿児島市に隣接する立地条件から、吹上浜でのサーフィン、湯之元温泉や吹上温泉、薩摩焼発祥の地である美山、妙円寺詣りやせつぺとべ等の伝統行事、戦国島津ゆかりの史跡など、さまざまな観光資源を有しており、それらを生かした観光もその重要性が増しており、平成27年度に策定した総合戦略においても最も力を入れる分野の一つに位置づけるなど、本市としても特に重視している産業となっている。

4-2 地域の課題

平成17年5月に4町が合併し誕生した日置市では、旧町間を接続する道路網の整備による一体性の確保と、過疎化、少子高齢化に対応した定住促進や人口交流の拡大を図るため、平成17年度から認定地域再生計画に基づき、広域農道や林道、市道の整備などを行い、道路網の整備水準は着実に向上し、大きな効果が出ている。

しかし、工場等の撤退による雇用の流動化などにより、雇用環境は不安定なものとなっており、若年層を中心とした人口流出は依然として続き、地域社会の活力低下につながっている。こうした状況はさらに続くものと予測され、若年層が定住できるような環境整備や社会・経済的基盤の条件整備を進めながら地域間交流等を積極的に推進することにより、人口減に伴う購買力を補う都市住民との交流人口を増加させる魅力あるまちづくりが急務となっている。

重要な産業のひとつである林業においては、林道の整備不足によって高性能林業機械等を使用した施業が困難な状況や、搬出の際に迂回する現状にあり、早急な整備が求められている。

4-3 計画の目標

こうした状況を踏まえ、地方創生道整備推進交付金により市道と林道を一体的に整備することにより、市民が安心・安全に生活でき、効率的な物流を支え、観光地・景勝地等を周遊するなど、人・モノの交流を支える道路ネットワークの形成を図り、併せて行う体験型バスツアーや観光情報の発信、グリーンツーリズムの推進事業等により、歴史的財産や自然資源、観光資源等を生かした交流・定住人口の増加を図る。

また、さらなる交流人口の増加を目的として、スポーツ合宿やスポーツ大会等の誘致を強化し、令和2年の東京オリンピックや鹿児島国体を追い風としたスポーツを通じた観光・交流を促進させる。

それらの結果、地域全体として本市を訪れる交流人口の増加、移住・定住促進、地域産業の振興が図られ、「住んでよし 訪ねてよし 魅力あふれるまちひおき」のまちづくりを目指すものである。

- (目標1) 観光交流の活性化(年間観光入込客の増加)
243万人(令和1年度)→250万人(令和6年度)
- (目標2) 移住・定住人口の増加
532人(令和1年度)→900人(令和6年度)
- (目標3) 林業の振興と森林整備の促進(素材生産量の増加)
16,500m³(平成30年度)→17,000m³(令和6年度)

5 地域再生を図るために行う事業

5-1 全体の概要

日置市は、南九州西回り自動車道が横断するとともに、東西に国道3号、南北に国道270号の主要路線が走り、これらを軸に主要地方道など広域的な道路が整備されており、九州新幹線の全線開業等で県外への移動時間も短縮され、交流圏の飛躍的拡大や交流人口の増加が期待されている。しかし、市内の半分以上を山林が占めているため市道及び林道の整備が遅れており、特に高速道路や幹線道路へのアクセス道が脆弱である

このため、江口浜で賑わうサーファーや運動公園施設を活用したスポーツ合宿、各種スポーツ大会参加者などの観光客が、江口蓬莱館やチェスト館など一部の物産館のみに立ち寄る傾向があるなど、地域全体としての観光地の連携が十分図られていない。

また、林道は整備が遅れている上に、既存林道と幹線道路とのネットワークが脆弱であることや、未舗装道路の豪雨時の洗掘による林業施業への影響等もあり間伐材の利用等林業振興に当たっては効率が悪い。

そこで、地方創生道整備推進交付金により、国道3号と270号を中心として、そこから延びる主要地方道や県道にアクセスする市道24路線及び林道2路線の道路拡張等を行うことにより、効率的な道路網を構築する。

それにより、地域の豊富な観光資源がネットワーク化されることで観光客数の増加・滞在時間の延長を図るとともに、住民の利便性の向上や地域住民との交流も促進される。加えて、森林施業における効率化と生産コストを抑えることで、林業・木材産業の生産活動を向上させ、林業の振興を図っていく。

5-2 第5章の特別の措置を適用して行う事業

(1) 地方創生道整備推進交付金【A3008】

対象となる施設は以下のとおりで、事業開始に係る手続き等を完了している。

なお、整備箇所等については、別添の整備箇所を示した図面による。

- ・市道 道路法に規定する市道に認定済み。()内は認定年月日。
 - 市道上野西オロモント線 (昭和28年8月27日)
 - 市道湯之元福ヶ野線 (昭和28年8月27日)
 - 市道梅木玉田線 (昭和28年8月27日)
 - 市道中伊作田鉦口線 (昭和61年4月1日)
 - 市道元伊作田小田峯線 (昭和28年8月28日)
 - 市道長里湯之元線 (昭和27年12月5日)
 - 市道美山インターチェンジオンランプ線 (平成18年6月29日)
 - 市道美山インターチェンジオフランプ線 (平成18年6月29日)
 - 市道野田梅木線 (昭和53年8月23日)
 - 市道桑津流線 (昭和49年4月1日)
 - 市道寺脇寺脇 (バイパス) (昭和57年11月1日)

市道下神殿田代線	(平成18年12月21日)
市道新村中川線	(昭和31年12月18日)
市道新久線	(昭和30年4月1日)
市道松ヶ尾線	(昭和46年3月19日)
市道八幡線	(昭和52年3月17日)
市道樗木草見線	(昭和30年4月1日)
市道新町向江線	(昭和56年3月27日)
市道上与倉線	(昭和26年9月1日)
市道西宮内さつま湖線	(昭和44年3月26日)
市道山下永吉線	(昭和26年9月1日)
市道印口松元線	(昭和21年1月10日)
市道吹上浜海岸線	(昭和38年9月23日)
市道坊野野添線	(大正7年12月5日)

- ・林道 森林法による南薩地域森林計画書に路線を記載予定。

林道矢筈線
林道見笠線

[施設の種類] [事業主体]

- | | |
|-----|-----|
| ・市道 | 日置市 |
| ・林道 | 日置市 |

[事業区域]

- ・日置市

[事業期間]

- | | |
|-----|-------------|
| ・市道 | 令和2年度～令和6年度 |
| ・林道 | 令和3年度～令和6年度 |

[整備量及び事業費]

- ・市道9.0km、林道1.5km
- ・総事業費 2,770,000千円 (うち交付金1,375,000千円)
 - 市道 2,410,000千円 (うち交付金1,205,000千円)
 - 林道 360,000千円 (うち交付金 170,000千円)

[事業の実施状況に関する客観的な指標及び評価の方法]

(令和/年度)	基準年 (R1)	R2	R3	R4	R5	R6
指標1 観光地等までのアクセス改善 市来インター～薩摩焼発祥の地	15分	15分	15分	15分	15分	8分
指標2 年間入込客数の増加 市内物産館8件の来館者数の増加	(千人) 1,211	(千人) 1,214	(千人) 1,217	(千人) 1,220	(千人) 1,223	(千人) 1,226
指標3 素材生産量の増加 日置市内での施業面積の増加	0ha	0ha	0ha	1ha	1ha	1ha

毎年度終了後に日置市の職員が必要な調査等を行い、速やかに状況を把握する

[事業が先導的なものであると認められる理由]

(政策間連携)

市道及び林道を一体的に整備することにより、個別に整備するのに比べて、市内各所の観光地や生産区域と出荷・加工・販売等拠点を効率的にネットワークすることが可能となり、観光地の連携や林業の振興といった地域再生の目標達成により資するとともに、全体の整備コストの削減が期待できるという点で、先導的な事業となっている。

市道線上野西オロモント線，市道湯之元福ヶ野線，市道梅木玉田線，市道中伊作田鉦口線，市道元伊作田小田峯線，市道長里湯之元線，市道美山インターチェンジオンランプ線，市道美山インターチェンジオフランプ線，市道野田梅木線，市道桑津流線，市道寺脇寺脇（バイパス），市道下神殿田代線，市道新村中川線，市道新久線，市道松ヶ尾線，市道八幡線，市道樗木草見線，市道新町向江線，市道上与倉線，市道西宮内さつま湖線，市道山下永吉線，市道印口松元線，市道吹上浜海岸線，市道坊野野添線，林道矢筈線，林道見笠線は、日置市国土強靱化地域計画に基づき実施するものである。

5-3 その他の事業

地域再生法による特別の措置を活用するほか、「日置市らしさを感じる魅力と活力あふれるまちづくり計画」を達成するため、以下の事業を総合的かつ一体的に行うものとする。

5-3-1 地域再生基本方針に基づく支援措置

該当無し

5-3-2 支援措置によらない独自の取組

(1) 中山間地域総合整備事業

内 容 農村と都市住民との交流を促進するため、市の南北部を中心に

生産基盤と生活環境基盤の整備を一体的に行う。（農水省支援事業）

実施主体 鹿児島県
実施期間 平成24年度～

（２）東市来都市計画事業

内 容 都市計画道路をはじめとした公共施設整備、住宅地の利用促進を図り、健全な市街地の形成を図る。（国交省支援事業）

実施主体 日置市
実施期間 平成13年度～

（３）日置市九州・全国大会等開催補助制度

内 容 総合運動公園施設等での大会誘致を図るため、九州・全国大会等を開催する団体に対して運営経費の一部を助成し、地域の活性化を図る。（日置市単独事業）

実施主体 日置市
実施期間 令和２年度～

（４）日置市スポーツ合宿誘致助成制度

内 容 日置市内の体育施設の利用増進を図るため、日置市内に宿泊する団体（児童・学生）に対して宿泊費の一部を助成する。（日置市単独事業）

実施主体 日置市
実施期間 令和２年度～

（５）観光地の魅力向上

内 容 他市の観光地との相互協力関係を築き、交流、情報交換などにより誘客の促進を図る。また、パンフレット、メディア等の広告媒体を活用した宣伝を促進し、観光のPRを推進していく（日置市単独事業）。

実施主体 日置市・日置市観光協会
実施期間 令和２年度～

（６）森林環境譲与税活用事業

内 容 森林環境譲与税を財源に、林道の維持・補修や森林資源量調査などを行い、森林施業の活性化を図る。

実施主体 日置市
実施期間 令和元年度～令和６年

6 計画期間

令和２年度～令和６年度

7 目標の達成状況に係る評価に関する事項

7-1 目標の達成状況に係る評価の手法

4に示す地域再生計画の目標については、計画期間の中間年度及び計画年度終了後に日置市が必要な調査等を行い、速やかに状況を把握するとともに、定量的な目標に関わる基礎データは、市のデータ等を用いた評価シートを作成し、中間評価、事後評価の際には、第三者委員会において評価を行う。

7-2 目標の達成状況に係る評価の時期及び評価を行う内容

	令和1年度 (基準年度)	令和4年度 (中間年度)	令和6年度 (最終目標)
目標1 年間観光入込客の増加	243万人	246万人	250万人
目標2 移住・定住人口の増加	(平成24年度～30年度) 532人	730人	900人
目標3 素材生産量の増加	(平成30年度) 16,500m ³	16,600m ³	17,000m ³

(指標とする数値の収集方法)

項目	収集方法
年間観光入込客の増加	日置市の毎年の公表データより
定住人口の増加	日置市の毎年の公表データより
素材生産量の増加	鹿児島県集計データより

- ・ 目標の達成状況以外の評価を行う内容
 1. 事業の進捗状況
 2. 総合的な評価や今後の方針

7-3 目標の達成状況に係る評価の公表の手法

4に示す地域再生計画の目標については、中間評価及び事後評価の内容を、速やかに日置市のホームページの利用により公表する。